

香曾我部義則先生の今月のカルテ ④

慢性痛とペインクリニック

インクリニック」とは一体どんな治療法なのか、梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生に解説していただく連載コラム「慢性痛とペインクリニック」。第4回の今月のカルテは「腰痛（その3）椎間（ついかん）関節痛の最新ブロック治療」です。

前回は急性の腰椎椎 狭窄（せきついかんきす）

間（ようついいかん） 症を伴った 「高周波熱凝固法」 関節痛の場合に椎間関 慢性痛の場合、局所麻 という新しい治療法が

節ブロックが非常に効 果を示すことをお話し

椎間関節痛の最新ブロック治療としての「高周波熱凝固」

ました。しかし、骨粗 折、変形性腰椎症、椎 間板ヘルニア、脊柱管

うずきの長期的な軽減に威力を発揮します。痛みを伝える神経を破壊してやれば痛みを感じなくできるのです。が、神経破壊薬（アルコールなど）を使用すると、痛みを伝える神経だけでなく障害を与えてはいけないう神経、周辺の組織まで破壊す

つまり麻痺（まひ）など、患者さんにとって耐え難い副作用が生じる危険性が常につきまとうことになるのです。そのため、高度な技術も必要とされることとなり、限られた部位や、合併症が生じて

すと熱を生じる特性を利用し、熱によって神経を変性させ、痛みを取る方法です。針先の温度と凝固時間を調節すれば、目的とする神経だけを破壊し、神経破壊の効果が周囲に及ぶことはありません。実際の方法は、皮膚の表面に痛み止め（局所麻酔薬）をした後、透視下（レントゲンテレビ）で確認しながら針を目的神経のそばに挿入し、低周波の刺激

非常になんかことが特徴です。この治療法は現在多くの痛みの治療に適用されるようになりまし。腰痛では椎間関節症のほかに腰痛や頸（けい）部痛、肋間（ろっかん）神経痛にも効果を示します。がんの骨転移に伴ううずきなどにも非常に良い適応となり、膝関節、股関節の痛み、帯状ヘルペス神経痛などにも応用されてきています。心臓や脳など多くの持病を抱えているためブロック治療が難しいといわれた方にも行うことが可能です。

今回は、中年以上の方で、腰痛の原因で一番多い「変形性。腰痛症」についてです。



香曾我部義則先生

プロフィール こうそかべ・よし のり 昭和54年3月 岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長を経て今年4月1日から現職。日本麻酔学会専門医。日本ペインクリニック学会認定医。現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属

れが「高周波熱凝固法」間は90〜180秒程度、安全、簡便で副作用が

■メモ 問い合わせ先 ☎(2093) 33555(代) 日本ペインクリニック 認定施設・梶木病院(西花尻1231-1)